

# 令和6年度

## 64期生

## 2年次シラバス

64期生      クラス      学籍番号      氏名

長野県農業協同組合連合会  
佐久総合病院看護専門学校

## シラバスについて

1. 本校で履修する分野は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野に大別される。  
これらの分野に、それぞれ規定の科目・単位・時間数が表記されている。
2. 1年次は主に基礎分野・専門基礎分野・専門分野の履修、2年次は主に専門基礎分野・専門分野の履修、3年次は主に専門分野の臨地実習を履修する。
3. 各科目は全て必修科目である。卒業までに3151時間・107単位全てを履修・修得しなければならない。
4. 講義は、時間割とシラバスを確認し臨む。
5. 記載内容は、科目名・講義開始時期・単位数・時間数・担当講師・科目目標・講義回数・主要内容・評価方法・使用テキスト・受講時の注意事項である。
6. 科目の評価は、授業途中での課題提出や講義終了後の筆記試験等で評価をなる。
7. このシラバスは、年度はじめに該当学年のものが閲覧できる。
8. 卒業後も使用する可能性があるため、各自で保管する。

教育内容	科目名	単位	時間	講師	配点	
専門基礎分野	1	臨床薬理学	1	30	栗林正彦	100
	2	治療論	1	10	西本寛	40
				20	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	60
	3	臨床検查看護	1	15	清水真旗	100
	4	疾病と治療1	1	30	金澤美樹	100
	5	疾病と治療2	1	30	金澤美樹	100
	6	疾病と治療3	1	30	金澤美樹	100
	7	疾病と治療4	1	30	金澤美樹	100
	8	疾病と治療5	1	16	高見澤将・畠口佳冴	40
14				依田達也	60	
9	農村医学2	1	15	院内講師	課題・レポート等	
専門分野	10	看護過程展開論Ⅱ	1	20	内藤英子・渡辺和美・池田葉子 清水真旗・伏見礼子	課題・技術試験
	11	気づきのトレーニングⅡ	1	15	森泉美波・坂本静・原田愛 中島正和・鈴木文子	課題・技術試験
	12	成人看護学援助論1	1	10	看護師	30
				10	看護師	35
				8	看護師	35
				4	坂本静	
	13	成人看護学援助論2	1	14	認定看護師・看護師	45
				12	看護師	45
				4	渡辺和美	10
	14	成人看護学援助論3	1	12	認定看護師・看護師	50
				4	看護師	20
				10	清水真旗	20
				4	専任教員	10
	15	成人看護学援助論4	1	8	看護師	30
				8	認定看護師	20
				6	佐藤みどり	20
				4	渡辺純子	20
				4	清水真旗	10
	16	老年看護学援助論2	1	8	武舎栄次	20
				22	白田明美・伏見礼子	80
	17	小児看護学援助論1	1	14	重田大輔	50
				8	専門看護師	20
4				認定看護師	20	
2				看護師	10	
2				鈴木文子		
18	小児看護学援助論2	1	30	森泉美波 池田葉子	100	
19	母性看護学援助論1	1	18	原田愛	60	
			12	病棟助産師	40	
20	母性看護学援助論2	1	18	原田愛	60	
			12	池田葉子	40	
21	精神看護学援助論1	1	20	伊澤敏	70	
			10	中島正和・加藤二三和	30	
22	精神看護学援助論2	1	14	認定看護師	50	
			16	認定看護師(厚生連事業所)	50	

教育内容	科目名	単位	時間	講師	配点
専門分野	23 地域・在宅看護援助論 1	1	14	加藤二三和	50
			16	内藤英子	50
	24 地域・在宅看護援助論 2	1	16	認定看護師	50
			14	加藤二三和	50
	25 地域・在宅看護援助論 3	1	20	加藤二三和 内藤英子	課題評価
	26 臨床判断能力	1	30	原田愛・森泉美波・坂本静 中島正和・鈴木文子	課題・演習
	27 健康を維持するための活動Ⅱ	1	15	白田明美・佐藤みどり・池田葉子	課題・提出物
	28 終末期看護	1	30	坂本静・佐藤みどり・伏見礼子 原田愛・鈴木文子	100
	29 周手術期看護	1	30	渡辺和美・沼水真旗 原田愛・認定看護師	100
	30 医療安全	1	18	白田明美	60
6			三石哲也・芝田宗之	20	
6			中澤友也	20	
31 看護研究Ⅰ	1	15	鈴木文子	課題評価	

科目名	臨床薬理学	学年学期	単位数	時間数
		2 学年 前期	1	30
時間割表記名	臨床薬理学	講義担当教員 薬剤師 (外部講師)		
科目のねらい				
薬物療法と看護を理解するために必要な臨床的な薬理学について学ぶ。				
学習目標				
1. 臨床で主に用いられる薬剤が分かる 2. 疾患・症状に対しての使用薬剤が分かる 3. 薬剤が人体に及ぼす影響が分かる				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
1	1.対症療法薬の臨床薬理学 1)解熱鎮痛薬 ①種類 ②薬物療法の基本 2)制吐薬 ①悪心・嘔吐の病態と分類 ②薬物療法の基本 3)便秘治療薬 ①病態と分類 ②薬物療法の基本	講義		
2	4)下痢治療薬 ①病態と分類 ②薬物療法の基本 5)鎮咳・去痰薬 ①病態と種類 ②薬物療法の基本 6)鎮静薬 ①鎮静薬を必要とする病態 ②薬物療法の基本 7)睡眠薬 ①睡眠障害の病態と症状 ②薬物療法の基本	講義		
3	2.主要疾患の臨床薬理学 1)高血圧症 ①種類 ②作用機序 ③副作用 2)急性冠症候群 ①種類 ②作用機序 ③副作用	講義		
4	3)心不全 ①種類 ②作用機序 ③副作用 4)不整脈 ①種類 ②作用機序 ③副作用 5)抗血小板・抗凝固療法 ①種類(抗血栓療法・抗血栓薬) ②作用機序 ③副作用	講義		
5	6)気管支喘息 ①種類 ②作用機序 ③副作用 7)慢性閉塞性肺疾患 ①種類 ②作用機序 ③副作用 8)胃・十二指腸潰瘍 ①種類 ②作用機序 ③副作用	講義		
6	9)胃食道逆流症 ①種類 ②作用機序・原因 ③副作用 10)慢性肝炎 ①種類(B型慢性肝炎・C型慢性肝炎・自己免疫性肝炎) ②作用機序・原因 ③副作用 11)慢性腎臓病(CKD) ①種類 ②作用機序 ③副作用	講義		
7	12)透析患者における薬剤管理 ①腎機能と薬物の代謝・排泄 ②人工透析 ③副作用 13)糖尿病 ①種類(経口血糖降薬・注射薬) ②作用機序 ③副作用 14)脂質異常症 ①種類(高コレステロール血症・高トリグリセリド血症) ②作用機序 ③副作用	講義		
8	15)骨粗鬆症 ①種類 ②作用機序 ③副作用 16)関節リウマチ ①種類 ②作用機序 ③副作用 17)パーキンソン病 ①種類 ②作用機序 ③副作用 18)認知症(アルツハイマー病) ①種類 ②作用機序 ③副作用	講義		

9	19)うつ病・うつ状態 ①種類 ②作用機序 ③副作用 20)てんかん ①種類 ②作用機序 ③副作用 3.特定の行為に関する臨床薬理学 1)循環動態にかかわる持続点滴中の薬剤投与と調整 ①カテコールアミン	講義
10	2)持続点滴中の降圧薬の投与量の調整 ①種類 ②作用機序 ③副作用 3)持続点滴中の利尿薬の投与量の調整 ①種類 ②作用機序 ③副作用 4)持続点滴中の糖質・電解質輸液の投与量の調整 ①種類 ②作用機序 ③副作用 5)栄養及び水分管理にかかわる薬剤投与と調整 ①脱水症状 ②高カロリー輸液	講義
11	6)インスリンの投与量の調整 ①種類 ②作用機序 ③副作用 7)精神および神経症状にかかわる薬剤投与と調整 ①種類(向精神薬・抗精神薬・抗不安薬・抗けいれん薬) ②作用機序 ③副作用 8)感染兆候がある者に対する薬物の臨時投与 ①種類(細菌感染・抗菌薬) ②作用機序 ③副作用	講義
12	9)副腎皮質ステロイド薬による治療 ①種類(炎症・抗ガン薬の血管外漏出) ②作用機序 ③副作用 10)術後・呼吸管理にかかわる薬剤投与と調整 ①種類(硬膜外カテーテルによる鎮痛薬・硬膜外麻酔・人工呼吸器による鎮痛薬) ②作用機序 ③副作用	講義
13	4.末梢神経系作用薬 1)交感神経作用薬 2)副交感神経作用薬 3)筋弛緩・局所麻酔薬 5.中枢神経系作用薬 1)麻薬 6.抗炎症系 1)抗ヒスタミン薬 2)抗炎症薬 3)リウマチ薬 4)高尿酸血症	講義
14	7.抗悪性腫瘍薬 1)抗癌薬 2)免疫治療薬 3)ホルモンに関する薬物 8.その他 1)ビタミン 2)皮膚科用薬 3)眼科用薬 4)漢方薬 5)消毒薬の計算	講義
15	9 新薬の開発(臨床試験と倫理) 1) 臨床試験 2) ヘルシンキ宣言 3) 倫理指針	講義
	試験	
事前学習・事後学習内容 基礎薬理学、栄養生化学と関連させながら聞くと理解しやすい。 また、実習での活用のためにサブノートを作ると実習に役立ち、理解がしやすくなります。		評価方法 試験 100点
使用するテキスト 薬理学(医学書院)		参考文献
受講生へのメッセージ 難しい印象を受けるが、まずは自分の体にどのように薬が作用するのかを考える。実習場では患者さんの治療のメインになり、看護師として責任持ち扱うことになる大切な基礎をまなぶ授業です。		

科目名 治療論		学年学期	単位数	時間数
		2 学年 前期	1	30
時間割表記名 治療論		講義担当教員 担当教員：白田		
		医師・理学療法士作業療法士・言語聴覚士		
科目のねらい 疾病の回復を促進するための主な治療法の基礎を学ぶ。				
学習目標 リハビリテーションについて学習し、リハビリテーションを取り入れた看護を学ぶことができる 疾病の回復を促進するための主な治療法の基礎を学ぶ				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
<input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
特別講義	リハビリテーション看護	リハビリテーション 鹿教湯三才山病院看護師		
1	治療論① リハビリテーション ・リハビリテーションとは ・リハビリテーション医療に必要なチームアプローチ	講義		
2	治療論①・リハビリテーションの目的と適応 ・リハビリテーションの種類と特徴 ・作業療法	講義		
3	治療論① ・物理療法 ・運動療法	講義		
4	治療論① ・言語療法（訓練の実際等の演習含む）	講義		
5	治療論① ・テクノエイド支援室について ・患者さんご家族のための福祉用具の選び方 ・装具・義肢・歩行補助具など（実際の使用を含む）	講義		
6	治療論① ・スライディングボードを使った車椅子への移乗（リフト移乗）	演習		
7	治療論① ・関節可動域の測定・関節可動域訓練・杖の使い方			
8	治療論① ・禁忌肢位のある患者の移動方法			
9	治療論① ・呼吸筋リハビリテーション ・心臓リハビリテーション			
10	治療論① リハビリテーション療法時の家族への対応（退院調整会議等） リハビリテーション療法時の患者のケアで看護師に臨むもの	講義		
11	治療論② 低侵襲治療法 内視鏡的治療・ラジオ波焼灼療法・カテーテル治療・放射線治療	講義		
12	治療論② 手術療法	講義		
13	治療論② 麻酔について	講義		
14	治療論② 侵襲・炎症・外科的感染症	講義		
15	治療論② 瘍・臓器移植	講義		
試験				
事前学習・事後学習内容 事前に教科書を読んで受講してください		評価方法 試験 100点		
使用するテキスト リハビリテーション看護・臨床看護総論（医学書院）		1回～10回＝60点、11回～15回＝40点 参考文献：解剖生理学		
受講生へのメッセージ 患者さんは色々な目的でリハビリテーションを入院中に行っています。リハビリテーションは継続することが大切です。日々の看護の中にどのように取り入れたらいいのか学習しましょう。治療について学習します。 治療により人体にどのような反応がおこるのか学習しましょう。				

科目名  臨床検査看護	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	15
時間割表記名  臨床検査看護	講義担当教員  専任教員:清水		
科目のねらい 看護に必要な血液データの見方、臨床に必要な検査の内容と検査前・中・後の看護を学ぶ。			
学習目標 臨床現場で看護師に必要な検査に関する基礎知識、臨床現場で看護師が活用する検査の意味とデータを知ることによってアセスメントに活かすことができる 穿刺・生検検査・生理検査・画像検査を受ける患者の前・中・後の看護を学ぶ			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<input type="checkbox"/>	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
<input type="checkbox"/>	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
<input type="checkbox"/>	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	臨床現場で看護師に必要な検査に関する基礎知識		
2	臨床現場で看護師が活用する検査の意味とデータの読み方		
3	臨床現場で看護師が活用する検査の意味とデータの読み方	ポストテスト①	
4	穿刺・生検検査・生理検査 画像検査（CT、MRI、レントゲン、造影検査） 画像検査（超音波、カテーテル検査、内視鏡検査）		
5			
6			
7			
8	事例	事例	
	試験		
事前学習・事後学習内容 解剖生理学の復習		評価方法 ポストテスト10点 事例 10点 終講試験 80点	
使用するテキスト 基礎看護技術(医学書院) 臨床看護総論(医学書院)		参考文献 解剖生理学	
受講生へのメッセージ 患者さんの病態を知るための検査にどのような意味があるのか、どのようにアセスメントに取り入れるか学習しましょう。			



科目名  疾病と治療 1	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	30
時間割表記名  疾病と治療 1	講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		

科目のねらい 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解する。

学習目標 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解することができる。  
1運動器 2内分泌 3生殖器・乳腺

ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
- 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
- 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
- 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
- 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容	方法・必要なもの
1	1.運動機能の障害・疾患・病態・検査・治療 1) 姿勢運動にかかわる骨・関節の疾患 ・骨折(大腿骨頸部骨折・骨盤骨折)・外傷・捻挫・打撲	講義
	・代謝性疾患(骨粗鬆症・くる病・骨軟骨他)	
2	・先天性股関節脱臼・慢性関節リウマチ(人工関節置換術) ・変形性関節症・骨髄炎・関節炎、骨腫瘍	講義
	2) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション ・脊髄損傷・椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症	
3	3) 活動や行動が制限されることにより発生する疾患 ・関節拘縮	講義
	4) 腫瘍 ・骨肉腫	
4	2 内分泌系の病態・検査・治療 1) 内分泌障害 (1) 下垂体疾患(下垂体腫瘍・間脳・下垂体疾患)	講義
	(2) 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症(バセドウ病))	
5	甲状腺機能低下症(クレチン症)・甲状腺炎 慢性甲状腺炎(橋本病)・(甲状腺癌)	講義
	(3) 副甲状腺疾患(副甲状腺機能低下症)	
6	(4) 副腎皮質・髄質疾患(副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群) 原発性アルドステロン症)	講義

9	3 代謝異常の疾患・障害の病態・検査・治療	講義
	(1) 脂質代謝疾患（高脂血症・脂質異常症）	
	(2) 尿酸代謝疾患（高尿酸血症・痛風）	
10	(3) 糖代謝疾患（糖尿病）	講義
	(4) その他（メタボリック症候群・肥満症・ビタミン欠病）	
11	4 生殖器系・乳腺の疾患・病態・検査・治療	講義
	1) 女性生殖器系	
12	(1) 月経随伴症状（月経異常・更年期障害）	講義
	(2) 不正性器出血・気質的疾患（ポリープ・びらん・筋腫・癌など）機能性子宮出血（内分泌機能の失調）	
	(3) 膣の疾患（帯下異常・外陰部掻痒感・性感染症・トリコモナス膣炎・カンジダ）	
13	(4) 子宮の疾患（子宮筋腫・子宮頸癌・子宮体癌・子宮内膜症）	講義
	(5) 卵巣の疾患（卵管炎・卵巣腫瘍・卵巣癌）	
14	(6) 乳腺の疾患・病態・検査・治療 ・乳腺炎・乳腺症	講義
15	(7) 腫瘍 ・乳癌	講義
	試験	
事前学習・事後学習内容 疾病に関連する解剖生理の知識を復習しておきましょう。		評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 運動器（医学書院）内分泌・代謝（医学書院） 女性生殖器（医学書院）		参考文献 解剖生理学（医学書院）
受講生へのメッセージ 1. 事前にテキストを読んで受講してください。 2. 自分で学習した解剖生理学の資料を講義時持参してください。		

科目名  疾病と治療 2	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	30
時間割表記名  疾病と治療 2	講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		

科目のねらい

系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解する。

学習目標

系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解することができる。

1. 呼吸器    2. 循環器    3. 血液・造血器

ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 感じ取る力    価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
- 2. 実践する力    専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
- 3. 実践する力    地域で喜ぶ人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
- 4. 連携・協同する力    多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
- 5. 成長する力    専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容	方法・必要なもの
1	1. 呼吸器系病態・検査・治療	講義
	1) 感染による気道・肺の炎症	
2	(気管支炎・肺炎・間質性肺炎・インフルエンザ・結核・胸膜炎)	講義
	2) 気道疾患（気管支喘息・COPD）	
	3) 肺気腫（肺癌・中皮腫）	
3	4) 急性および慢性の呼吸不全の病態生理・検査・治療	講義
	5) 呼吸機能の障害による循環機能への影響 ・胚性心・肺高血圧・肺塞栓症	
4	6) 肺癌の外科的治療（胸腔ドレーン管理含む）	講義
5	2. 循環器系病態・検査・治療	
6	1) 後天的に心機能の障害を引き起こす疾患	講義
7	(心不全・心肥大・心膜炎)	講義
8	2) 心筋の酸素欠乏による心機能の障害	講義
	(虚血性心疾患・心筋梗塞・狭心症・心筋炎)	
9	3) 心臓のリズムの障害（不整脈）	講義
	4) 血圧の異常（高血圧）	
10	5) 先天性心疾患による心機能の障害（心室中核欠損症ファロー	講義
	四徴候・動脈管開存症）病態・検査・治療	
11	・弁膜症	講義
	6) 血液の供給を障害する血管の疾患（動脈瘤・大動脈瘤・閉鎖性動脈硬化症・挫滅症候群・下肢静脈瘤・深部静脈血栓症）	

12	3. 血液・造血器系病態・検査・治療	
13	1) 貧血（鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血）	講義
14	2) 出血傾向（TTP・ITP・DIC）	講義
	3) 白血球減少症（病態・検査・治療）	
15	4) 造血器の腫瘍（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫）	講義
	5) 後天性免疫疾患（エイズ）	
	試験	
事前学習・事後学習内容 疾病に関連する解剖生理の知識を復習しておきましょう。		評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 呼吸器（医学書院） 循環器（医学書院） 血液（医学書院）		参考文献 解剖生理学（医学書院）
受講生へのメッセージ 1. 事前にテキストを読んで受講してください。 2. 自分で学習した解剖生理学の資料を講義時持参してください。		

科目名  疾病と治療 3	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	30
時間割表記名  疾病と治療3	講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		

科目のねらい

系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解する。

学習目標

系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解することができる。

1. 泌尿器 2. 消化器 3. 腎・膠原・アレルギー

ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
- 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
- 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
- 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
- 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容	方法・必要なもの
1	1. 消化器系	
	1) 上部消化管の病態・検査・治療	講義
2	(逆流性食道炎・急性胃炎・ヘリコバクターピロリ感染症 胃・十二指腸潰瘍・食道癌・胃癌)	講義
	2) 下部消化管の病態・検査・治療	講義
3	(潰瘍性大腸炎・クローン病・虫垂炎・痔瘻・大腸ポリープ 結腸癌・直腸癌)	講義
	3) 排便障害の病態・検査・治療	講義
4	(イレウス・便秘・下痢)	講義
	4) 肝臓・胆管炎・膵炎・劇症肝炎・肝硬変・肝不全)	
5	5) 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍の病態・検査・治療	
	(肝臓癌・胆嚢癌・胆管癌・膵臓癌)	講義
6	6) 胆汁代謝・排泄の障害	
	(胆石・胆嚢炎・黄疸)	講義
7	7) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態・検査・治療	
	(鼠径ヘルニア・腹膜炎・横隔膜ヘルニア・吃逆)	講義
8	2 免疫機能の障害	
	1) 自己免疫疾患（膠原病）の病態・検査・治療	講義
9	(全身エリテマトーデス・シェーグレン症候群・関節リウマチ ベーチェット病)	講義
	2) 免疫低下に関連する病態・検査・治療	講義
	(肺血症・HIV)	
	3) ステロイド・パルス療法	

10	3 腎・泌尿機能疾患の病態・検査・治療	
	1) 腎機能障害(腎不全・腎炎・腎盂腎炎・急性糸球体腎炎)	講義
11	ネフローゼ症候群)	講義
	2) 血液透析の適応と実際・腹膜透析の実際	
12	3) 泌尿器機能障害(膀胱炎・過活動膀胱・腹圧性尿失禁夜尿症)	講義
13	4) 腎・尿路の腫瘍	講義
	(腎癌・尿管癌・膀胱癌・前立腺癌)	
14	5) 腎・尿路の通過障害	講義
	(尿路結石・腎結石)	
15	6) 男性生殖器の疾患	講義
	(前立腺炎・前立腺肥大)	
	7) 性交渉障害	
	試験	
事前学習・事後学習内容		評価方法
疾病に関連する解剖生理の知識を復習しておきましょう。		筆記試験100点
使用するテキスト		参考文献
消化器 (医学書院)		解剖生理学 (医学書院)
腎・泌尿器 (医学書院)		
受講生へのメッセージ		
1. 事前にテキストを読んで受講してください。		
2. 自分で学習した解剖生理学の資料を講義時持参してください。		

科目名  疾病と治療 4	学年学期	単位数	時間数
	2学年 前期	1	30
時間割表記名  疾病と治療 4	講義担当教員 外部講師（対面授業・オンライン授業）		
科目のねらい 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解する。			
学習目標 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解することができる。 1.脳神経系 2. 感覚器（皮膚科・眼科・形成外科・耳鼻科）			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<input type="checkbox"/>	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
<input checked="" type="checkbox"/>	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
<input type="checkbox"/>	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1 中枢神経系の疾患の病態・検査・治療	講義	
	1) 脳血管障害 くも膜下出血・脳内出血・頭蓋内圧亢進症 ・脳ヘルニア・脳浮腫・水頭症		
2	・脳腫瘍・転移性脳腫瘍・脳血管障害とは(CVG)	講義	
	一過性脳虚血発作(TIA)		
3	2) 検査・治療（脳波・腰椎穿刺・脊髄検査・ コンピュータ断層撮影(CT)・磁気共鳴画像(MRI)	講義	
	頸動脈撮影(CAG)・椎骨動脈撮影(VAG)		
	デジタルサブトラクション血管造影(DSA)		
	脳血管内治療(頸動脈ステント留置術(CAS))		
4	3) 頭部の外傷	講義	
	(頭皮外傷・頭蓋骨骨折・脳震盪・脳挫傷 外傷性頭蓋内出血)		
5	4) 二次的に意識障害・神経障害をおこす疾患	講義	
	(一酸化炭素中毒・先天性水頭症・二分脊椎・狭頭症 ・くも膜嚢胞・正常圧水頭症・頭蓋内感染症(外傷性に限る))		
6	5) 神経変性・脱髄性の疾患(多発性硬化症(MS) ・パーキンソン・病筋萎縮性側索硬化症(ALS))	講義	
7	6) 認知症	講義	
	(アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症) ・脊髄小脳変性症(SCD)		
	7) 機能的疾患(てんかん)	講義	
8	8) 筋肉・神経筋接合部の疾患	講義	
	(重症筋無力症・筋ジストロフィー)		

9	9) 微生物の中樞神経への感染 (髄膜炎 (感染によるもの含)・頭蓋内膿瘍)	講義		
	10)もやもや病			
	2 末梢神経系の疾患の病態・検査・治療 (ギランバレー症候群・顔面神経麻痺・圧迫性神経麻痺 ・ベル麻痺・自律神経失調症)			
	多発筋炎、皮膚筋炎 ・脳炎			
10	3 神経機能の主な症状 ・構音障害 (仮性球麻痺など) ・失語症・運動麻痺・頭痛 ・錐体路、錐体外路障害・けいれん・高次機能障害	講義		
	4 遷延性意識障害と脳死			
11	1 感覚器系の病態・検査・治療 1) 皮膚障害 (帯状疱疹・湿疹・蜂窩織炎・アトピー性皮膚炎・疥癬・蕁麻疹 ・悪性黒色腫・皮膚真菌症 (カンジダ・白癬) ・スティーブンス・ジョンソン症候群)	講義		
	12		2) 熱傷 ・褥創	講義・演習
	13			
	14		3) 視覚障害・疾患の病態・検査・治療 (網膜剥離・白内障・緑内障・感染症・網膜症) (1) 眼底検査 (2) 眼底光凝固療法 (3) 網膜剥離治療 (4) 眼内レンズ挿入術	講義
15	4) 聴覚・嗅覚・味覚障害及び耳鼻咽喉科疾患の病態 ・検査・治療 (1) 良性疾患 ・メニエール病・突発性難聴・副鼻腔炎 ・中耳炎 (2) 悪性疾患 喉頭癌・咽頭癌・舌癌 (3) その他 鼻出血	講義		
	試験			
	事前学習・事後学習内容 疾病に関連する解剖生理の知識を復習しておきましょう。		評価方法 筆記試験100点	
	使用するテキスト 脳神経 (医学書院) 皮膚科 (医学書院) 眼科 (医学書院) 耳鼻科 (医学書院)		参考文献 解剖生理学 (医学書院)	
	受講生へのメッセージ 1. 事前にテキストを読んで受講してください。 2. 自分で学習した解剖生理学の資料を講義時持参してください。			



科目名	学年学期	単位数	時間数
	2学年 通年	1	30
時間割表記名	講義担当教員 医師 臨床検査技師		
科目のねらい 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解する。			
学習目標 系統別疾患・障害の成り立ち・症状・治療・検査・回復過程を理解することができる。 1. 微生物の特徴と人体に及ぼす影響 2. 主な感染症			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1.微生物と微生物学 1)性質 2)微生物と人間 3)対象と目的	臨床検査技師	
	2.細菌の性質 1)形態と特徴 2)培養環境と栄養	講義	
2	3)遺伝 4)分類 5)常在細菌叢	講義	
	3.真菌の性質	講義	
3	1)形態と特徴 2)真菌の増殖 3)分類と命名法 4)栄養と培養法	講義	
	4.原虫の性質 1)特徴と基本構造 2)病原原虫の種類	講義	
4	5.感染と感染症	講義	
	1)微生物感染の機構 2)細菌感染の機構 3)真菌感染の機構	講義	
5	4)原虫感染の機構 5)ウイルス感染の機構	講義	
	6.感染源・感染経路からみた感染症	講義	
6	1)経口感染 2)経気道感染 3)接触感染	講義	
	4)経皮感染 5)母児感染	講義	
7	7.滅菌と消毒	講義	
	1)バクテリオファージとバクテリオファージ	講義	
8	2)滅菌・消毒の意義と定義 3)滅菌法	講義	
	8.病原細菌と細菌感染症	講義	
	1)グラム陽性球菌他 2)グラム陰性球菌他 3)カンピロバクター属	講義	
	4)スピロヘータ5)マイコプラズマ6)リケッチア7)クラミジア科	講義	
	9.病原真菌と真菌感染症	講義	
	1)深在性真菌症をおこす真菌	講義	
	2)深部皮膚真菌症をおこす真菌	講義	
	10.病原原虫と原虫感染症 1)根足虫類 2)鞭毛虫類	講義	
	3)孢子虫類 4)絨毛虫類	講義	
	11.主なウイルスとウイルス感染症	講義	
	1)DNAウイルス 2)RNAウイルス 3)ウイルスの臨床的分類	講義	
9	1.感染症とは 1)感染症の病態生理 2)症状	医師	講義
	2.検査・診断 1)感染症診断の原則 2)検査の実際		講義
	3)検査・診断の流れ		講義
10	3.治療 1)感染症治療の原則 2)化学療法の基礎		講義
	3)各種の化学療法薬 ①抗菌薬 ②抗真菌薬 ③抗ウイルス薬 4)その他の治療法		講義

11	4.疾患の理解	講義
	1)発熱・不明熱 2)上気道感染症 3)下気道感染症	
	4)心血管系感染症	
12	5)消化管感染症 6)肝胆道系感染症 7)尿路感染症	講義
	8)性感染症 9)皮膚軟部組織感染症	
	10)眼の感染症 11)中枢神経感染症	
13	12)悪性腫瘍・造血幹細胞移植・固形臓器移植に伴う感染症	講義
	13)菌血症・敗血症 14)その他のウイルス性感染症	
	15)真菌感染症 16)寄生虫感染症	
14	17)HIV感染症と日和見感染症 18)新興・再興感染症	講義
	19)多剤耐性菌感染症	
15	5.感染に対する生体防御機構	講義
	1)自然免疫のしくみ 2)獲得免疫のしくみ	
	3)粘膜免疫のしくみ 4)感染の徴候と症状	
試験		
事前学習・事後学習内容 疾病に関連する解剖生理の知識を復習しておきましょう。		評価方法 筆記試験100点
使用するテキスト 微生物（医学書院） アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）		参考文献 解剖生理学（医学書院）
受講生へのメッセージ 1. 事前にテキストを読んで受講してください。 2. 自分で学習した解剖生理学の資料を講義時持参してください。 3. 専門分野毎の講義となるため、複数講師での試験となります。		

科目名  農村医学2	学年学期	単位数	時間数
	2学年 通年	1	15
時間割表記名  農村医学2	講義担当教員 農場長・保健師・担当教員：清水		
科目のねらい 地域で暮らす人々の生活と健康管理を知り、農業体験を通して地域の人々の健康を支えるための看護を考える。			
学習目標 佐久総合病院の保健医療活動の歴史を学び、地域で生活する人々への看護支援の方法を理解する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	暮らしを知る 農業を営む人々の健康と予防について		
	1) 「食と農」		
2・3	暮らしを知る 地域の暮らしを知る		
	「農業体験」①		
4・5	「農業体験」②		
6	地域の健康対策 地域保健予防活動の実際について		
	1) 佐久総合病院の保健医療活動の歴史		
7	2) 「農作業の安全と身体活動支援」		
8	3) 「地域の人々への保健医療活動の現状と課題」		
	レポート評価		
事前学習・事後学習内容 1年次に学習した農村医学1の復習		評価方法 毎時間の感想・まなび用紙提出状況 出欠席状況 レポート提出	
使用するテキスト なし		参考文献 1年次農村医学1の講義資料	
受講生へのメッセージ この科目は本校の特徴的な教育内容です。地域の人々の生活を知り、健康支援の方法を見出すために主体的に参加しましょう。			

科目名 看護過程展開論Ⅱ	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	20
時間割表記名 看護過程展開論Ⅱ	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい 看護の対象である人々を、その人がもっている健康上の問題を解決するためのプロセスについて紙上事例を展開することで学ぶ。			
学習目標 1. 紙上事例の対象者の状態に応じた看護に必要な情報を収集することができ、アセスメントできる。 2. アセスメントに基づく個別性のある看護計画の立案と、計画に基づいた看護が実施できる。 3. 看護を実施することで、看護過程全体を振り返ることができ、実施した看護の成果に対する評価を学ぶことができる。 4. 看護要約の記述方法を学ぶことができる。			
・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	紙上事例オリエンテーション	演習	
2	情報分類整理 1, 2, 3、関連図	演習	
3	充足・未充足の判断	演習	
4	看護問題1つ	演習	
5	看護問題2つ	演習	
6	看護展開演習	実習室演習	
7.8	技術試験	実習室	
9	実施・反応・評価	演習	
10	看護要約	演習	
	試験		
事前学習・事後学習内容 紙上事例に関する学習（解剖生理学、病理学、薬理学等）		評価方法 紙上事例記録成果物 50点 技術試験 50点	
使用するテキスト 紙上事例に関するテキスト （解剖生理学、病理学、薬理学等）	参考文献		
受講生へのメッセージ 看護過程展開論Ⅰを踏まえた演習内容になります。必ず復習して演習に臨んでください。このあとの実習で不安なく看護展開できるようにしっかりと学習していきましょう。また、課題提出期限は必ず守りましょう。			

科目名 気づきのトレーニングⅡ	学年学期	単位数	時間数
	2学年 通年	1	15
時間割表記名 気づきのトレーニングⅡ	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい 対象の変化に対する「気づき」を基に、看護を実践できる力を学ぶ。			
学習目標 1. 「気づき」からのあらゆる状況を感じ、根拠を明確にできる。 2. 「気づき」から、その状況にあった看護を考え実践できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	「気づき」から対象の状態を把握する（観察・知識・技術）	講義・演習 ポストテスト①	
2	「気づき」から対象の状態を把握する（観察・知識・技術）	演習・発表	
3	「気づき」から対象の状態を把握する	演習	
4	「気づき」からの看護実践	演習・発表	
5	「気づき」技術の確認2	OSCE	
6	「気づき」技術の確認2	OSCE ポストテスト②	
7	技術の確認2 リフレクション（映像からの振り返り）	演習	
8	技術の確認2 グループまとめ発表	発表	
	試験		
事前学習・事後学習内容 ・解剖生理学 ・基礎看護学		評価方法 ・技術試験 60点（20点/回 ×3回） ・課題提出 20点 ポストテスト20点 （振り返り用紙・グループまとめ含む）	
使用するテキスト 持ち物 ・バインダー・技術の確認に必要な物 ・1年時のファイルを持参してください。 *必ず白衣着用で参加		参考文献 ・解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院	
受講生へのメッセージ 様々な気づきから看護の実践につなげるために、既習の学習を振り返りながら、その状況にあった看護の実践ができるように、常に感性を磨いていきましょう。この科目は、2年時の臨床判断能力に繋がります。			

科目名	成人看護学援助論 1	学年学期	単位数	時間数
		2 学年 前期	1	30
時間割表記名	成人看護学援助論 1	講義担当 専任教員 坂本 静 看護師		

科目のねらい

病理学で学んだ呼吸器、循環器、血液・造血器の機能障害の知識を活かし、これらの疾病のある対象の理解とその看護の基礎を理解し、実習に活かす能力を養う。また、がんの治療や副作用についての既習知識を活かし、がん看護の基礎及び機能障害ごとの看護を理解し、実習に活かす能力を養う。

- 学習目標
- 1 呼吸器の機能障害のある患者の看護の基礎を理解し、実習に活かせる能力を養う
  - 2 循環器の機能障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う
  - 3 がんについての概況と、治療を受ける対象の看護が理解できる
  - 4 血液・造血器の機能障害のある患者の看護が理解できる

ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
- 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
- 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
- 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
- 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容		方法・必要なもの	配点
1	機能障害のアセスメント	<呼吸器障害のある患者の看護> 1) 呼吸器のフィジカルアセスメント 2) 換気障害・ガス交換障害の程度と原因 3) 心身・日常生活への影響	講義	20点 病棟 看護師
2	治療を受ける患者の看護	1) 侵襲的用圧換気 (NIPPV の基礎知識) 2) 気管切開を受ける患者の看護	講義	
3	呼吸器障害の症状を伴う患者の看護	1) 呼吸困難・チアノーゼ、喀痰困難時の患者の看護 2) 喀血時の患者の看護	講義	
4	呼吸器疾患を持つ患者の看護	1) 肺腫瘍のある患者の看護 2) 気管支喘息患者の看護 (発作時の対応と予防) 3) 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導 慢性閉塞性肺疾患、肺線維症、在宅酸素療法含む	講義	
5	機能障害のアセスメント	<循環器障害のある患者の看護> 1) 循環器のフィジカルアセスメント *四肢の血圧測定含む・解離性大動脈瘤を例に 2) 浮腫・うっ血・疼痛の観察法 3) 機能障害の程度と原因 4) 心身・日常生活への影響	講義	30点 病棟 看護師
6	治療を受ける患者の看護	1) ペースメーカー装着時の生活指導・社会的支援について *植え込み型除細動器含む 2) 薬物療法 ①降圧・利尿薬、抗不整脈・抗狭心症薬の服薬指導	講義 講義	
7	循環器の症状を伴う患者の看護	胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、失神、四肢の疼痛 (動脈閉塞含む) のある患者の看護	講義	
8	循環器疾患を持つ患者の看護	1) 慢性心不全疾患を持つ患者の看護 2) 高血圧コントロールの生活指導 3) 虚血性心疾患患者の生活指導	講義	

9	がん患者と家族の特徴	<がん看護> 1) がん患者と家族の特徴 2) がん看護の役割 3) がんの推移とがん対策 4) 意思決定を支える看護 5) 社会参加を促す支援	講義	10点 認定 看護師
10	がん治療と看護	1) がん薬物療法と看護 (1) 治療計画を踏まえた患者への関わり (2) がん薬物療法における副作用 ①副作用と発症時期 ②主な副作用 注意を要する急性症状の看護、 嘔気・嘔吐、口腔粘膜障害、脱毛 汎血球減少による症状と看護 ③薬剤の被ばく防護	講義	10点 認定 看護師
11		2) 放射線療法に伴う看護 (1) 放射線治療経過中の看護 (2) 主な副作用と看護 ①早期症状と晩期症状 ②主な副作用と看護 放射線宿酔、皮膚炎、 粘膜炎（口腔・咽頭・食道・粘膜・消化器・肺臓炎） ③放射線被ばく防護	講義	10点 看護師
12・13	造血器機能障害のアセスメントと症状に伴う看護	<血液疾患> 1) 造血機能が低下している対象 2) 貧血、出血傾向、易感染、 3) 心身・日常生活への影響	講義	病棟 看護師  10点
	治療を受ける患者の看護	1) 造血幹細胞移植を受ける患者の看護	講義	
	造血器疾患を持つ患者の看護	1) 再生不良性貧血を持つ患者の看護 2) 急性骨髄性白血病の緩解期の看護と生活指導	講義	
14・15	事例	事例からアセスメントをする	GW	(10点) 教員
<b>試験</b>				
事前学習・事後学習内容 既習の関連内容の復習 教科書を事前に読んでおく			評価方法 成果物 10点 (1回5点×2回) 筆記試験 90点 授業態度	
使用するテキスト 系統的看護学講座 成人看護学2 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学3 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学4 医学書院		参考文献		
受講生へのメッセージ 実際に実習に行った時に行う看護方法を学びます。 解剖生理、病理学、基礎看護技術などこれまでの学習内容を復習して学びましょう。				

科目名	成人看護学援助論 2		学年学期	単位数	時間数
			2学年 前期	1	30
時間割表記名	成人看護学援助論 2		講義担当 看護師	専任教員 渡辺和美 認定看護師(厚生連事業所)	
<b>科目のねらい</b> 病理学で学んだ消化器、腎・泌尿器の機能障害の知識を活かし、これらの疾病のある対象の理解とその看護の基礎を理解し、実習に活かす能力を養う。					
<b>学習目標</b> 1 消化器の機能障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う 2 腎・泌尿器の機能障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う					
<b>・ポリシーとの関連性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>					
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容		方法・必要なもの	配点	
1 2	1 機能障害のアセスメント	<b>&lt;消化器系&gt;</b> 1) 消化管機能障害                      2) 膵液分泌障害 3) 胆汁分泌障害                      4) 肝機能障害 5) 生命・生活への影響	講義	45点	
3	2 検査・治療・処置を受ける患者の看護	1) 経管栄養法（経腸、胃瘻含む） 2) イレウス菅留置中 3) 肝庇護療法 4) インターフェロン療法	講義		
4 5	3 消化器障害の症状を伴う患者の看護 4 消化管疾患を持つ患者の看護	1) 腹痛、嘔吐、吐血、下血、便秘・下痢のある患者の看護・吐血には、食道静脈瘤の破裂によるものも含む 2) 黄疸のある患者の看護（胆石症を例に） 3) 浮腫・腹水のある患者の看護 4) 肝性脳症 5) 急性・慢性膵炎のある患者の看護 6) 潰瘍性大腸炎、クローン病患者の看護 7) 胃・十二指腸潰瘍のある患者の看護	講義： 認定看護師		
6 7	4 消化器疾患を持つ患者の看護	1) 胃・大腸がんのある患者の看護 2) 人工肛門造設後の患者の看護	講義		



8 9	1 機能障害のアセスメント 2 検査・治療・処置を受ける患者の看護	<b>&lt;腎臓器系&gt;</b> 1) 体液量調節機能障害 2) 電解質調節機能障害 3) 酸・塩基調節機能障害 (腎) 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 腎移植を受けた患者の看護 4) 慢性腎不全期の病態に応じた看護	講義	45点
10 11	3 腎機能障害の症状を伴う患者の看護 4 腎・泌尿器疾患を持つ患者の看護	1) 尿毒症 2) 浮腫 3) 尿の性状の異常 4) 排尿の異常 5) 血液浄化と看護 (血液透析、腹膜透析 (CAPD)) * 血液透析時の薬物療法含む	講義	
12 13		<b>&lt;泌尿器系&gt;</b> 1) 尿の性状の異常 2) 排尿の異常 2) 前立腺疾患のある患者の看護 (前立腺がん、膀胱がん) 3) 泌尿器障害のある患者の看護 4) 男性の不妊症患者の看護	講義	
14 15		事例からアセスメントし、看護を考えよう	演習	10点
<b>試験</b>				
事前学習・事後学習内容 既習の関連内容の復習 教科書を事前に読んでおく			評価方法 成果物 10点 終講試験 90点	
使用するテキスト 系統的看護学講座 成人看護学5 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学8 医学書院			参考文献	
受講生へのメッセージ 実際に実習に行った時に行う看護方法を学びます。 解剖生理、病理学、基礎看護技術などこれまでの学習内容を復習して学びましょう。				

科目名	成人看護学援助論 3	学年学期	単位数	時間数
		2学年 後期	1	30
時間割表記名	成人看護学援助論 3	講義担当	看護師 専任教員:清水	

科目のねらい

病理学で学んだ脳・神経、膠原病、感覚器の機能障害の知識を活かし、これらの疾病のある対象の理解とその看護の基礎を理解し、実習に活かす能力を養う。

- 学習目標
- 1 脳・神経障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う
  - 2 膠原病の患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う
  - 3 感覚器障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う

ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
- 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
- 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
- 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
- 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容	方法・必要なもの	配点
1	<p>脳神経障害の症状を伴う患者のアセスメントと看護①</p> <p>&lt;脳・神経系・内科&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命維持活動調節機能障害 (key words:頭蓋内圧亢進症状 脳ヘルニア)</li> <li>2) 運動感覚機能障害 (key words: ICF/ICIDH・痙縮・固縮・感覚障害・運動失調・不随運動)</li> <li>3) その他 (key words:排尿障害・自律神経障害)</li> </ol>	講義	50点
2	<p>脳神経障害の症状を伴う患者のアセスメントと看護②</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高次機能障害 (Key word: 意識障害・失語症・注意障害・半側空間無視 記憶障害・失行・失認)</li> <li>2) 摂食嚥下 (Key word: プロセスモデル・球麻痺・仮性球麻痺)</li> </ol>	講義	
3	<p>検査・治療・処置を受ける患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 血管内治療 薬物療法 (t-PA 含む)</li> <li>2) 脳室-腹腔 (V-P) シヤント</li> <li>3) 薬物療法</li> <li>4) 低体温療法・急性期、ICU</li> </ol>	講義	

4	4 脳・神経疾患、機能障害に応じた患者の看護	1) 脳血管障害 くも膜下出血・脳梗塞・脳出血・もやもや病 2) 感染症 脳炎、髄膜炎 3) 脳腫瘍	講義	
5 6		4) 重症筋無力症 5) パーキンソン病(症候群) 6) 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	講義	
7 8	膠原病 症状、治療、疾患を持つ患者の看護	<膠原病をもつ患者の看護> * 1) ~ 4) はSLE、強皮症と関連させて 1) 症状と看護 皮膚・粘膜症状、筋症状、レイノー現象 2) 薬物療法 免疫抑制薬、ステロイド療法 6) 全身性強皮症	講義	20点
9 10 11 12 13	1 機能障害のアセスメント 2 検査・治療・処置を受ける患者の看護	<感覚器> 1) 症状に対する看護 難聴・耳痛・耳漏・眩暈・嘔声・鼻閉・鼻出血 1) 検査を受ける患者の看護(聴力・平衡機能検査・味覚・聴覚検査) 2) 治療を受ける患者の看護(喉頭全摘術・副鼻腔手術・点鼻・点耳・聴覚検査) 3) 生活指導・回復期(発生の機能回復・退院について) 慢性期(日常生活行動・平衡感覚障害・味覚・聴覚障害) (眼) 症状に対する看護・検査・治療を受ける患者の看護 (皮膚) 症状に対する看護・検査治療を受ける患者の看護	講義	20点
14 15	事例	事例をもとにグループワーク・発表	講義	(10点)
試験				
事前学習・事後学習内容 既習の関連内容の復習 教科書を事前に読んでおく			評価方法 事例 10点 終講試験 90点	
使用するテキスト 系統的看護学講座 成人看護学7 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学12, 13, 14、 医学書院			参考文献	
受講生へのメッセージ 実際に実習に行った時に活用する看護方法を学びます。 解剖生理、病理学、基礎看護技術などこれまでの学習内容を復習して学びましょう。				

科目名	成人看護学援助論 4		学年学期	単位数	時間数
			2学年 後期	1	30
時間割表記名	成人看護学援助論 4		講義担当教員 看護師 専任教員 佐藤みどり		
科目のねらい 病理学で学んだ運動器・内分泌・女性生殖器の機能障害の知識を活かし、これらの疾病のある対象の理解とその看護の基礎を理解し、実習に活かす能力を養う。					
学習目標 1 運動器障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う 2 内分泌機能障害のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う 3 女性生殖器系のある患者の看護の基礎を理解し実習に活かせる能力を養う					
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける					
授業の流れ					
回	学習内容			方法・必要なもの	配点
1	1機能障害の アセスメント	<運動器> 1)神経麻痺 *MMT含む 2)循環障害と区画症候群(コンパートメント症候群) 3)疼痛 4)感染		講義	30点
2	2 検査・治療・ 処置を受ける 患者の看護	5) 脊髄造影 6) 関連造影検査 3 効果的な固定法・牽引法と生活援助及び合併症の予防 1)ギブス・シーネ固定 2)松葉杖・杖の歩き方 3)車いす 4)牽引法 ①スピードトラック ②キルシュナー鋼線		講義	
3	3 運動器障害 の症状を伴う患 者の看護	1)神経麻痺 3)疼痛 4)感染 5) 脊髄造影 6) 関連造影検査 2)循環障害と区画症候群(コンパートメント症候群) (アイシングを含む)		講義	
4	4 運動器疾患、 機能障害に 応じた患者 の看護	4 経過に応じた患者の看護 1)回復期 脊椎損傷患者の看護 2)慢性期 大腿骨頭部骨折 骨頭置換術を受けた患者の生活指導 関節リウマチ患者の看護 頸髄不全麻痺患者の在宅における訪問看護 ----- 5 退院調整と家族介護指導		講義	
5	1内分泌機能 障害のある患 者の看護 (糖尿病以外)	<内分泌系> 1) 内分泌機能の観察とアセスメント (1) 甲状腺機能障害 ①甲状腺触診法 ②主要症状の観察 動悸・発汗・いらいら・うつ傾向 ③心身・日常生活への影響		講義	30点
6		2) 内分泌機能障害の看護 (1) 甲状腺機能亢進・低下の看護 ①薬物療法・放射線ヨード療法 ② 甲状腺クリーゼの予防 (2) ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 * 尿崩症のホルモン補充療法含む		講義	

7 8	2糖代謝のある患者の看護	1)糖代謝 (1)糖代謝障害の観察とアセスメント ①障害の原因と程度 ②血糖測定法(血糖微量採血含む) ③身体所見・血液・尿検査・神経学的所見の正常性 a.高血糖 b.低血糖 ④障害の原因と程度	講義	
		2)糖尿病の治療と指導 1)三大療法の指導(インスリン注射法含む) 2)糖尿病の合併症予防の生活指導	講義	
9 10	1 機能障害と看護 アセスメント 診療の介助 症状	1) 主要症状アセスメントと看護 ①性器出血・ショック徴候 ②帯下・外陰部掻痒感・性感染症 ③排尿障害 ④自律神経症状・不定愁訴 2) 更年期障害 3) 診療介助における看護 ①外診時②内診時 4) 子宮内膜症	講義	20点
11	2 女性生殖器機能障害のある患者の看護	<女性生殖器> 1) 女性生殖器系の疾患を持つ対象の看護 2) 不妊症・不育症についてと看護	講義	
12 13	乳腺疾患のある患者の看護	<乳腺疾患> 1) 乳房疾患のアセスメントと症状・治療 ①腫瘍 乳腺良性腫瘍疾患、乳腺悪性腫瘍疾患 ②発生・発育・異常 ③炎症 2) 乳房手術を受ける患者の看護 (リンパ浮腫含む) 3) 乳房手術後の患者の生活と看護 (リンパ浮腫含む)	講義	20点
14 15	事例	事例からアセスメントをする 糖尿病のある患者の生活・退院指導(事例をもとに)	演習	教員 (10点)
試験				
事前学習・事後学習内容 既習の関連内容の復習 教科書を事前に読んでおく			評価方法 成果物 10点 終講試験 90点	
使用するテキスト 系統的看護学講座 成人看護学10 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学6 医学書院 系統的看護学講座 成人看護学9 医学書院			参考文献	
受講生へのメッセージ 実際に実習に行った時に行う看護方法を学びます。 解剖生理、病理学、基礎看護技術などこれまでの学習内容を復習して学びましょう。				

科目名  老年看護学援助論2	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 前期	1	30
時間割表記名  老年看護学援助論2	講義担当教員 認知症認定看護師 専任：白田明美・伏見礼子		
科目のねらい  高齢者の援助の実践を学ぶ。			
学習目標 1 高齢者に多くみられる健康障害の看護が展開できる 2 治療を受ける患者の看護が述べられる 3 認知症高齢者の看護が説明できる			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>□ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1. 高齢者のアセスメント 加齢変化確認テスト 1) 高齢者の特徴とアセスメントの基本	講義	
2	2) 高齢者のフィジカルアセスメント	講義	
3	2. 経過別にみた老年看護 1) 高齢者のヘルスプロモーション	講義	
4	2) 急性期看護 ①入院 ②外来 ③薬物	講義	
5	3) リハビリテーション看護	講義	
6	4) 高齢者の医療安全 5) 災害看護	講義	
7	3. 認知症と看護 1) 認知症高齢者の理解	講義 (認知症認定看護師)	
8	2) 行動のアセスメント		
9	3) 接し方		
10	4) 家族とその思い		
11	4. 看護過程 1) オリエンテーション	講義・演習 提出物① 提出物②	
12	2) 個人ワーク		
13	3) グループワーク		
14	4) 事例の読み込み		
15	5) まとめ		
	試験		
事前学習・事後学習内容 老年看護学概論・老年看護学援助論1で学習した知識を復習し、授業に臨みましょう。 実習を具体的にイメージしながら学習していきましょう。		評価方法 看護過程提出点 ①10点 ②10点 終講試験80点 1～6=60点、7～10=20点	
使用するテキスト  老年看護学（医学書院）	参考文献  加齢変化の冊子		
受講生へのメッセージ 実習の対象の大半を占める高齢者を様々な側面から理解し、臨地実習で活用できるよう学習していきましょう。これまで学習してきた高齢者の特徴を関連させて対象の理解につなげていきましょう。			

科目名 小児看護学援助論 1	学年学期	単位数	時間数
	2学年 通年	1	30
時間割表記名 小児看護学援助論 1	講義担当教員 医師、専門・認定看護師、看護師		
科目のねらい 子どもと家族への看護の役割を理解するため、代表的な疾患と健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、看護を学ぶ。			
学習目標 1. 主な症状に対する子どもと家族の特徴を理解することができる。 2. 主な症状・状態に応じた子どもと家族への看護を考えることができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	子どもの疾患① 染色体異常・先天性異常	講義	
2	子どもの疾患② 呼吸器・循環器疾患の特徴	講義	
3	子どもの疾患③ 感染症の特徴	講義	
4	子どもの疾患④ 血液・造血器・悪性新生物の特徴	講義	
5	子どもの疾患⑤ 消化器・腎・泌尿器系の特徴	講義	
6	子どもの疾患⑥ 代謝・内分泌・アレルギー・免疫疾患の特徴	講義	
7	子どもの疾患⑦ 神経系・感覚器・運動器系疾患の特徴	講義	
8	さまざまな状況にある子どもと家族への看護① 思いを知る	講義・演習	
9	さまざまな状況にある子どもと家族への看護② 小児看護の場	講義・演習	
10	さまざまな状況にある子どもと家族への看護③暮らしの中での関わり 慢性期・回復期	講義・演習	
11	さまざまな状況にある子どもと家族への看護④ 災害とところのケア	講義・演習	
12	さまざまな状況にある子どもと家族への看護⑤ 救急処置	講義・演習	
13	さまざまな状況にある子どもと家族への看護⑥ 虐待	講義・演習	
14	さまざまな状況にある子どもと家族への看護⑦ 出生直後の集中治療	講義	
15	さまざまな状況にある子どもと家族への看護⑧ まとめ	講義・グループワーク	
	試験		
事前学習・事後学習内容 ・小児看護学概論の復習をして講義に臨みましょう。 ・課題シートを用いて学習していきましょう。		評価方法 筆記試験（疾患50点、看護50点）	
使用するテキスト ・系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） ・系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）		参考文献 ・小児看護学（南江堂） ・医療を受ける子どもへの上手なかかわり方（日本看護協会出版会）	
受講生へのメッセージ ・どんな状況にいても、子どもは成長・発達し続けます。子どもの未来のために子どもとその家族に必要なサポートを考えていきましょう。			

科目名 小児看護学援助論 2	学年学期	単位数	時間数	
	2学年後期	1	30	
時間割表記名 小児看護学援助論 2	講義担当教員 外部講師・専任教員			
科目のねらい 子どもの健やかな成長発達とその家族を支援するための看護を学ぶ。				
学習目標 1. 子どもと家族への看護を実践するための小児看護技術を相手の思いを考えながら理解できる。				
・ポリシーとの関連性				
■	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く		
■	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度		
■	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践		
□	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割		
■	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける		
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
1	小児看護技術の基本 子どもの理解、コミュニケーション			
2	小児看護技術の基本 フィジカルアセスメント、バイタルサイン	講義・演習・シミュレーション		
3	測定			
4	小児看護技術の基本 環境整備			
5	小児看護技術の基本 診察・検査・処置時の看護	講義・演習・シミュレーション		
6				
7				
8	小児看護技術の基本 薬物療法	講義・ポストテスト		
9	小児看護技術の基本 セルフケア能力・継続看護	講義（外部講師）		
10	看護過程さまざまな状況にある子どもと家族への看護の展開	講義・グループワーク		
11				アセスメント
12				看護の方向性
13				回復を促すための計画
14				家族への援助
15				看護の評価
	試験	発表		
事前学習・事後学習内容 ・既習学習を基に学習を進めていこう。 ・課題シートを用いて学習していきましょう。		評価方法 ・ポストテスト 10点 ・筆記試験 60点 ・課題提出 30点(技術10点 看護過程20点)		
使用するテキスト ・系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） ・系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）		参考文献 ・小児看護学（南江堂） ・医療を受ける子どもへの上手なかかわり方（日本看護協会出版会）		
受講生へのメッセージ ・これまでの学習をもとに、子どもと家族の健康・暮らしに関心をもち、理解を深めるために積極的に質問・発言・調べ、主体的に授業に望んでいきましょう。				



科目名 母性看護学援助論 1	学年学期	単位数	時間数
	2学年通年	1	30
時間割表記名 母性看護学援助論 1	講義担当教員 専任教員 病棟助産師		
科目のねらい ・妊娠期、分娩期の生理を学び、アセスメントの観点を理解し看護を学ぶ。 ・ハイリスク妊婦、産婦の看護を学ぶ。			
学習目標 ・周産期における妊婦・産婦の正常な経過および基本的な看護を学ぶ ・妊娠・分娩期における正常から逸脱した状態や回復過程について学ぶ			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	妊娠の経過と胎児の発育 妊娠の定義/妊娠の成立	講義	
2	母体の生理的・心理的变化/家族の心理・社会的変化	講義	
3	妊婦の健康管理/母体・胎児の健康アセスメント	講義	
4	妊婦健診の技術	講義 ポストテスト (5点)	
5	妊婦に必要な検査	講義	
6	妊娠中のマイナートラブルのメカニズムと援助	講義	
7	親になっていく過程のアセスメントと援助	講義 ポストテスト (5点)	
8	ハイリスク妊婦の看護 切迫流早産/妊娠悪阻/糖代謝異常	講義	
9	妊娠高血圧症候群/前置胎盤/常位胎盤早期剥離	講義	
10	分娩の要素	講義	
11	分娩の経過・産婦、胎児、家族のアセスメント	講義	
12	分娩期の看護の実際	講義	
13	産婦の心理・正常分娩の振り返り	演習・講義	
14	分娩期の異常と看護	講義	
15	分娩期の異常と看護	講義	
	試験		
事前学習・事後学習内容 テストのための学習だけでももったいないです。 領域実習や国家試験を意識しながら学習しましょう。		評価方法 筆記試験：妊娠期 (50点)、分娩期 (40点) ポストテスト：妊娠期 (10点)	
使用するテキスト 医学書院：母性看護学各論	参考文献 ・病気が見える vol.10 産科 ・ウェルネスから見た母性看護過程 ・ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程		
受講生へのメッセージ 母性は覚えることも多く、苦手意識を持ったり難しく捉える方もいますが、自分もこのように産まれてきた、或いはいつか自分も親になるのだと、楽しくイメージしながら学習していけると良いでしょう。 解らないことはいつでも相談に来てください。積極的に学んでいきましょう。			

科目名 母性看護学援助論2	学年学期	単位数	時間数
	2学年後期	1	30
時間割表記名 母性看護学援助論2	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい ・産褥期の身体的、心理的、社会的特徴について理解し産褥期におけるアセスメントの観点を理解する。 ・新生児の生理的特徴を理解し、正常に発育させるための援助を学ぶ。 ・ハイリスク褥婦、新生児の看護を学ぶ。			
学習目標 ・周産期における産褥期の正常な経過および基本的な看護を学ぶ ・産褥期における正常から逸脱した状態や回復過程について学ぶ ・新生児の子宮外生活適応を中心とした生理的特徴について理解する			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を産く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	産褥の定義/産褥の全身変化	講義	
2	産褥期の身体的特性：退行性変化	講義	
3	産褥期の身体的特性：進行性変化	講義	
4	母乳育児に向けた支援	講義 ポストテスト (5点)	
5	産褥期の心理・社会的特性	講義	
6	産褥期の健康状態アセスメント	講義	
7	退院に向けた支援	講義 ポストテスト (5点)	
8・9	産褥の正常からの逸脱と看護/帝王切開後の褥婦の看護	講義	
10	新生児の生理	講義	
11	新生児の健康状態のアセスメント	講義	
12	新生児看護の原則	講義	
13	出生直後の看護・出生24時間以降の看護	講義	
14	ハイリスク新生児の看護	講義	
15	沐浴・VS測定・おむつ交換 (産褥期：母乳育児・子宮底測定)	演習 (産褥・新生児)	
	試験		
事前学習・事後学習内容 テストのための学習だけではもったいないです。 領域実習や国家試験を意識しながら学習しましょう。		評価方法 ポストテスト：産褥期 (10点) 筆記試験：産褥期 (50点)、新生児 (40点)	
使用するテキスト 医学書院：母性看護学各論	参考文献 ・病気が見える vol.10 産科 ・ウエルネスから見た母性看護過程 ・ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程		
受講生へのメッセージ 母性は覚えることも多く、苦手意識を持ったり難しく捉える方もいますが、自分もこのように産まれてきた、或いはいつか自分も親になるのだと、楽しくイメージしながら学習していけると良いでしょう。 解らないことはいつでも相談に来てください。積極的に学んでいきましょう。			

科目名 精神看護学援助論1	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 通年	1	30
	講義担当教員		
時間割表記名 精神看護学援助論1	精神科医師・専任教員		
科目のねらい 主な精神疾患や精神症状について理解し、治療過程及び生活の自立に向けた看護を学ぶ。			
学習目標 精神障害の基本的知識および精神障害者の正しい理解ができる 1. 精神障害の基本的知識とおもな精神疾患の症状を学ぶ 2. 精神障がい者に対する治療法が分かる 3. 精神障がい者を取り巻く社会資源や地域社会との連携を学ぶ			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 ・精神（心）の動きと精神症状・状態像・精神科的診察・検査 ・精神科的診察	講義： 精神科医師担当	
2	主な精神疾患・障害と治療法 精神疾患/障害の診断基準・分類 ・神経発達症候群/神経発達障害群 (自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症など)	講義： 精神科医師担当	
3	・統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性症候群 (統合失調症、緊張病など)		
4	・双極性障害および関連障害群（双極性障害など） ・抑うつ障害群（うつ病など）		
5	・不安症群/不安障害群（パニック症など） ・強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群 (強迫症、脱毛症など)		
6	・心的外傷およびストレス因子関連症候群（ASD、PTSDなど） ・解離症群/解離性障害群（解離とは、解離性同一障害など） ・身体症状症および関連症群 (身体症状症、病気不安症、転換性障害など) 身体表現性障害、心気症、心身症など		
7	・食行動障害および摂食障害群（摂食障害） ・睡眠-覚醒障害群（不眠障害、ナルコレプシーなど） ・物質関連障害および嗜癖性障害群		

8	(依存とは、嗜癖とは、薬物、アルコールなど) ・パーソナリティ障害群・てんかん・性同一性障害 ・神経認知障害群（せん妄、認知症など）	
9	・身体合併症	
10	主な治療法 ・薬物療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法 司法精神医学と看護	講義： 精神科医師担当 ポストテスト10点
11	精神障害をもつ人の地域における生活への支援 ・地域精神保健福祉と社会参加	講義： 専任教員担当 ポストテスト10点
12	・精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 (社会制度、地域生活移行支援、訪問看護、就労支援など)	
13	・精神障害をもつ人を介護する家族への支援（家族ケア）	
14	1. 精神障害を持つ人の地域における生活への支援 1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 2) 地域精神保健福祉サービス	演習： 専任教員担当
15	3) 地域生活の再構築と社会参加 4) 精神障害を持つ人の地域生活支援の方法	
筆記試験		
事前学習・事後学習内容		評価方法
1. 事前にテキストを読んで受講して下さい。		ポストテスト10点×2回=20点 筆記試験 80点
使用するテキスト		
精神看護の基礎：医学書院		
精神看護の展開：医学書院		
受講生へのメッセージ		
精神障がいをもつ人々の病態を理解することで、患者や対象者や取り巻く家族の理解を深め、精神科医療に携わる医療従事者の役割について考えていきましょう。また、精神障がいをもつ人々の人権が尊重され、社会で自立して生活できる地域支援の方法についても学びます。精神障がい者を取り巻く地域支援についても考えてみましょう。		

科目名 精神看護学援助論 2	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 後期	1	30
時間割表記名 精神看護学援助論 2	講義担当教員		
	認定看護師(2名)		
科目のねらい 主な精神疾患や精神症状について理解し、治療過程及び生活の自立に向けた看護を学ぶ。			
学習目標 1. 精神障がいをもつ人への基本的な看護を学ぶ 患者—看護師関係の重要性を認識し、信頼関係成立のための基本的技術を学ぶ 2. 精神障害者の、社会復帰に求められる看護者の役割を学ぶ 3. 他職種との連携と看護の役割が理解できる 4. プロセスレコードを使って他者との関りが考察でき自己洞察を深める			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 1. 感じ取る力      価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力      専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li><input type="checkbox"/> 3. 実践する力      地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力      多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li><input type="checkbox"/> 5. 成長する力      専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	精神障害をもつ人への看護 事例で学ぶ精神疾患/障害をもつ患者への看護 ・統合失調症スペクトラム（急性・回復・慢性）	講義： 認定看護師担当 ポストテスト10点	
2	・双極性障害および関連障害群 ・抑うつ障害群		
3	・自閉症スペクトラム・注意欠如・多動性障害 ・強迫症および関連症群/強迫性障害および関連障害群		
4	・身体症候群および関連症群・食行動障害および摂食障害群 ・神経認知障害群		
5	・妄想性障害		
6	・がん・肺炎・骨折		
7	精神障害をもつ人への看護 ・精神科病棟という治療的環境と患者の生活、治療的環境の整備・事故防止、安全管理と倫理的配慮		

8	精神障害をもつ人への看護援助の展開 ・精神援助の基本構造（精神科フィジカルアセスメントなど） ・看護過程の記録（MSEなど） ・精神障害をもつ人のセルフケアの援助（セルフケアとは何か・看護理論の必要性）	講義：認定看護師 （厚生連事業所）
9	・患者による自己管理（セルフマネジメント・疾病教育・服薬自己管理・当事者の当事者による自己管理）	
10	看護過程の展開（統合失調症の事例） MSE（メンタルステータスイグザミネーション）を用いた看護の展開／事例	演習：認定看護師 （厚生連事業所）
11	を用いて情報収集・アセスメント・問題抽出・介入方法	
12	精神障害をもつ人と「患者－看護師」関係の構築 ・精神障害をもつ人とのかわりかた・精神障害をもつ人とのコミュニケーション	講義：認定看護師 （厚生連事業所）
13	・振り返り事の意味・プロセスレコードの活用	
14	1. 対人関係の理論 2. 対人関係の振り返りの技術	演習：認定看護師 （厚生連事業所）
15	1) プロセスレコードによる看護場面の再構成と振り返り	
筆記試験		
事前学習・事後学習内容  1. 事前にテキストを読んで受講して下さい。		評価方法  ポストテスト10点×1回=10点 筆記試験 90点(講師50点ずつ)
使用するテキスト 精神看護の基礎：医学書院 精神看護の展開：医学書院		
受講生へのメッセージ 精神障がいをもつ人への看護援助や支援方法を学びます。また、神障がいをもつ対象と看護師関係のあり方を理解し、コミュニケーションの方法を学んでいきましょう。講義を通して考え、感じ、学んだことを精神看護学実習だけでなく、これから出会う対象者との関りや対象者に寄り添う看護へつなげて行って下さい。		

科目名 地域・在宅看護援助論 1	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 通年	1	30
時間割表記名 地域・在宅看護援助論 1	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい くらしを支える看護の基本や加齢や病とともにある人と家族の理解を通じて在宅での日常生活援助方法を学ぶ。			
学習目標 1. 在宅でのくらしを支える日常生活援助方法から在宅看護の基本を理解できる。 2. 加齢や病とともにある人と家族の理解を通じて在宅看護のポイントを理解できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	くらしを支える看護の基本① 日常生活支援	講義	
2	くらしを支える看護の基本② 食事と排泄への援助	講義	
3	くらしを支える看護の基本③ 活動と睡眠への援助	講義・ポストテスト①	
4	くらしを支える看護の基本④ 清潔と感染予防への支援	講義	
5	くらしを支える看護の基本⑤ コミュニケーション促進への支援	講義	
6	くらしを支える看護の基本⑥ 振り返りと事例展開①	ポストテスト②・グループワーク	
7	くらしを支える看護の基本⑦ 事例展開②	グループワーク発表	
8	加齢や病いとともにある人と家族を支える① 年をとることを支える	講義 課題	
9	加齢や病いとともにある人と家族を支える② 認知症を持つ人と家族のくらしを支える	講義 課題	
10	加齢や病いとともにある人と家族を支える③ 慢性疾患を持つ人と家族のくらしを支える	講義 課題	
11	加齢や病いとともにある人と家族を支える④ 難病をもつ人と家族のくらしを支える	講義 課題	
12	加齢や病いとともにある人と家族を支える⑤ 精神疾患をもつ人と家族のくらしを支える	講義 課題	
13	加齢や病いとともにある人と家族を支える⑥ 在宅療養児と家族のくらしを支える	講義 課題	
14	加齢や病いとともにある人と家族を支える⑦ 穏やかな看取りを支える	講義	
15	加齢や病いとともにある人と家族を支える⑦ 穏やかな看取りを支える	講義 課題	
筆記試験			
事前学習・事後学習内容 授業のテキスト範囲を1回読み授業に臨んでください。		評価方法 ポストテスト10点(5点×2回) 課題 20点 筆記試験 70点	
使用するテキスト 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会	参考文献		
受講生へのメッセージ 地域・在宅看護概論をもとに、くらしを支える看護の実践を講義・演習を通じて学んでいきます。			

科目名 地域・在宅看護援助論2	学年学期	単位数	時間数
	2 学年 通年	1	30
時間割表記名 地域・在宅看護援助論2	講義担当教員 外部講師・専任教員		
科目のねらい 地域・在宅における医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術を学ぶ。			
1. 地域・在宅における佐久総合病院地域ケア科の地域ケア活動の特徴を理解できる。 2. 地域・在宅における医療的ケアの実際や療養者と家族への支援を理解できる。 3. 地域・在宅看護の事例から在宅看護過程の特徴や基礎を理解できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	佐久総合病院の地域ケア活動	講義	
2	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術① 在宅経管栄養法	講義	
3	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術② 在宅人工呼吸療法	講義	
4	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術③ 在宅中心静脈栄養法	講義	
5	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術④ 在宅酸素療法	講義	
6	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術⑤ 間欠導尿および膀胱留置カテーテル管理	講義	
7	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術⑥ ストーマケア	講義	
8	医療的ケアが必要な人の暮らしを支える技術⑦ 疼痛コントロール	講義	
9	グループワークのオリエンテーション 6つの事例から選択 演習計画立案	講義・グループワーク	
10	在宅看護過程展開① 事例展開 情報収集	グループワーク	
11	在宅看護過程展開② 事例展開 アセスメント	グループワーク	
12	在宅看護過程展開③ 事例展開 看護問題抽出	グループワーク	
13	在宅看護過程展開④ 事例展開 看護計画立案	グループワーク	
14	在宅看護過程展開⑤ 事例展開 発表準備	グループワーク	
15	在宅看護過程展開⑥ 事例発表	グループワーク	
	筆記試験		
事前学習・事後学習内容 授業のテキスト範囲を1回読み授業に臨んでください。		評価方法 グループワーク課題提出 50点 筆記試験 50点	
使用するテキスト 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会	参考文献		
受講生へのメッセージ 地域・在宅看護援助論1を基に在宅看護の実践について学んでいきます。 9～15回ではグループに分かれ事例をもとに実際に在宅看護過程を展開していきます。			



科目名  地域・在宅看護援助論3	学年学期	単位数	時間数
	2学年 後期	1	20
時間割表記名  地域・在宅看護援助論3	講義担当教員  専任教員		
科目のねらい 地域・在宅看護における訪問看護の看護展開から訪問技術、サービス担当者会議での看護師の役割、多職種連携について学ぶ。			
学習目標 1. 地域・在宅看護論における訪問看護の訪問技術を習得する。 2. サービス担当者会議における看護師の役割、多職種連携の重要性をロールプレイを通じて理解できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	模擬訪問演習についてのオリエンテーション	講義	
2	模擬訪問 計画立案 シュミレーション	グループワーク	
3	模擬訪問「訪問看護演習」	演習	
4			
5	模擬訪問 振り返り	グループワーク 発表	
6	模擬担当者会議演習についてのオリエンテーション	講義	
7	模擬担当者会議演習 計画立案 シュミレーション	グループワーク	
8	模擬担当者会議「サービス担当者会議」	演習	
9			
10	模擬担当者会議のまとめ	グループワーク 発表	
事前学習・事後学習内容 訪問看護師の役割、サービス担当者会議に参加する多職種を復習しておいてください		評価方法 演習課題評価100点 (模擬訪問50点・模擬担当者会議50点)	
使用するテキスト なし	参考文献 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 第6版 日本看護協会出版会		
受講生へのメッセージ いままで学んだ知識を統合しながら訪問看護、担当者会議のロールプレイを実践してもらいます。 地域・在宅看護論実習に直接つながる科目です。			

科目名  臨床判断能力	学年学期	単位数	時間数
	2学年後期	1	30
時間割表記名  臨床判断能力	講義担当教員  専任教員		
科目のねらい  その場の対象の状況に応じた的確な判断と行動がとれる基礎的判断能力を学ぶ。			
学習目標  1.気づきからの看護を考えることができる。 2.気づきからの看護を実践できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	臨床判断能の基礎知識	講義	
2	臨床判断に必要な学習の知識 (発達段階・解剖生理学・疾患と治療・薬理学のつながり)	講義・演習	
3	成人・老年：気づきと観察のトレーニング①	講義・演習	
4	成人・老年：解釈のトレーニング①	講義・演習	
5	小児：気づきと観察のトレーニング	講義・演習	
6	小児：解釈のトレーニング	講義・演習	
7	精神：気づきと観察のトレーニング	講義・演習	
8	精神：解釈のトレーニング	講義・演習	
9	在宅：気づきと観察のトレーニング	講義・演習	
10	在宅：解釈のトレーニング	講義・演習	
11	成人・老年：気づきと観察のトレーニング②	講義・演習	
12	成人・老年：解釈のトレーニング②	講義・演習	
13	気づきから省察の実践トレーニング① OSCE	シミュレーション教育・協同学習	
14	気づきから省察の実践トレーニング② OSCE	シミュレーション教育・協同学習	
15	まとめ	発表	
事前学習・事後学習内容 ・既習学習の復習・予習をしましょう。		評価方法 ・提出課題の提出 (60点) ・シミュレーション演習 (40点)	
使用するテキスト ・既習の教科書 ・資料はこちらで準備します	参考文献 ・既習の教科書		
受講生へのメッセージ 既習の学習をつなぎ合わせながら、対象の状態を把握していきましょう。そのためにも、復習やノートの整理が大切です。また、日々アンテナを高くし、「あれ？」と思うこと、感じることを大切にしていましょ。それが看護に繋がっていきます。			

科目名 健康を維持するための活動Ⅱ	学年学期	単位数	時間数
	2 学年後期	1	15
時間割表記名 健康を維持するための活動Ⅱ	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい 様々な健康レベルにある人たちが自己効力を高め、健康行動がとれるように支援する方法を学ぶ。			
学習目標 1 医療の場における健康教育の目的と役割について理解する。 2 健康教育が行われる場について理解する 3 個人・集団を対象とした健康教育の支援に必要な知識・技術態度を習得する。 ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	社会の変化と保健・予防にかかわる意義	ポストテスト①・講義：白田	
2	教育と指導とは何か	講義：白田	
3	保健指導の基礎理論①：個人ワーク ・自己効力理論 ・変化のステージモデル ・保健信念モデル	講義：白田 ジグソー学習 提出物①個人 提出物②発表後	
4	保健指導の基礎理論②：グループワーク		
5	保健指導の基礎理論③：発表会		
6	指導場面：個別指導と集団指導 患者教育・指導・支援の実際①パンフレットの作成	講義・提出物③	
7	患者教育・指導・支援の実際②発表	発表評価	
8		白田・池田・佐藤	
事前学習・事後学習内容 健康を維持するための活動Ⅰの復習・持参 (講義中に確認します) コミュニケーション技術・指導技術の動画の視聴		評価方法 ポストテスト①10点ポストテスト 提出①(20) 提出②(10) 提出③(20) 発表評価(発表点：40点) *各点数は最高点	
使用するテキスト 基礎看護学〔2〕基礎看護技術(医学書院)		参考文献 様々なポスター、パンフレット 公衆衛生・成人看護学概論	
受講生へのメッセージ 看護師になると患者教育の場面が多くなります。学生のうちに授業の内容が実習でできるまでに準備しておく			

科目名	学年学期		単位数	時間数
	2学年 通年		1	30
時間割表記名	講義担当教員		専任教員 坂本 静	
科目のねらい 各発達段階の終末期の特徴と看護を理解する。				
学習目標 1 終末期にある対象の理解と看護が理解できる。 2 緩和ケアを受ける対象の特徴と看護が理解できる。 3 死を迎える患者と家族の特徴と看護が理解できる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>				
授業の流れ				
回	学習内容			方法・必要なもの
1	終末期の理解	死の理解、終末期の理解		講義
2	終末期にある対象と家族の理解	小児期における終末期の特徴		講義
3		成人期・老年期における終末期の特徴		講義
4		終末期にある患者と家族がもつニーズ・それに対する援助		講義
5	緩和ケア	苦痛の緩和ケア① 全人的苦痛と緩和ケア エンド・オブ・ライフ、ACP		講義
6		苦痛の緩和ケア② 倦怠感、食欲不振、嘔心・嘔吐、 腹部膨満、便秘、下痢、呼吸困難、浮腫		講義
7		終末期患者の希望を支えるコミュニケーション		講義
8		終末期患者の希望を支えるコミュニケーション (ディスカッション)		
9	死の受容	小児と家族にとっての死の捉え方		講義
10		成人期・老年期の対象と家族の死の捉え方		講義
11		母性期(胎児・新生児)の対象と家族の死の捉え方 子供を亡くした家族の援助		講義
12	看取りの看護	成人期の看取り、臨終時の看護、 喪失と悲嘆のケア：家族(グリーフケア) 医療職者(グリーフケア、デスカンファレンス)		講義
13		臨死期の対応、家族の参加、家族心理		講義
14		退院支援と在宅における看取りの看護 自宅で死を迎えることの意味・ホスピス療養の意味		講義・演習
15	死亡時の看護	死後の処置		講義
試験				
事前学習・事後学習内容			評価方法	
関連内容の既習の講義の復習			レポート課題30点 試験70点	
使用するテキスト		参考文献		
小児看護学各論・母性看護学各論 医学書院		・エンドオブライフケア メチカルフレンド社		
成人看護学概論 がん看護 心理学 医学書院				
老年テキスト				
受講生へのメッセージ				
全人的苦痛のある患者を理解するように、受け身でなく能動的に授業に参加できるように、参考文献などを一読し事前に予習をしてきてください。				

科目名 周手術期看護	学年学期	単位数	時間数
	2学年 通年	1	30
時間割表記名 周手術期看護	講義担当教員 手術室看護師・専任教員		
科目のねらい 対象に応じた周手術期の看護、生命の危機的状況にある患者の看護を学ぶ。			
学習目標 1.周手術期の患者の特徴と看護について理解することができる			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li><input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割	講義	
2	手術侵襲と生体反応①	講義	
3	手術侵襲と生体反応② 炎症 感染症 創傷治癒過程	講義	
4	術前の患者の看護	講義	
5	麻酔法 全身麻酔と局所麻酔	講義（手術室看護師）	
6	術中の患者の看護	講義（手術室看護師）	
7	術後合併症	①ポストテスト 講義	
8	術後の患者の看護 ドレーンの管理	講義	
9	既往疾患を抱えながら手術を受ける患者への看護	講義 課題提出①	
10	特殊な術式と術後の看護 日帰り手術	講義	
11	重症集中治療を受ける患者の看護 人工呼吸器における管理	講義	
12	高齢者と手術	講義	
13	小児とその家族と手術	講義	
14	女性生殖器・帝王切開を受ける産婦の看護	講義	
15	術後の患者の看護演習	講義・演習 課題提出②	
試験			
事前学習・事後学習内容 各回の講義に関係する内容について、テキストを読んで受講してください		評価方法 ・①ポストテスト（手術看護）10点 ・課題提出①② 各10点(内容により採点) ・筆記試験 70点	
使用するテキスト 臨床外科看護総論・小児看護学概論・母性看護学概論・女性生殖器（医学書院） 周術期看護（ナーシング・グラフィカ）		参考文献 基礎・臨床看護技術（医学書院） <漫画>はたらく細胞・OPE看・ブラックジャック コウノドリ・麻酔科医ハナ など	
受講生へのメッセージ 手術は侵襲を伴う治療法であるため、対象を身体的側面から理解することが必須となります。また身体機能や形態の変化のみならず、術後の経過によっては予後が左右されるため、患者家族の不安や恐怖ははかりしれないものがあります。そのため、患者・家族の抱く不安に寄り添いながら、安全安楽な看護が提供できるようになってほしいと思います。			

科目名  医療安全	学年学期	単位数	時間数
	2学年 前期	1	30
時間割表記名  医療安全	講義担当教員 専任教員・医療安全室・臨床工学士		
科目のねらい 医療安全の考え方を学び、医療事故防止の基礎的能力を養う。			
学習目標 医療システムの中の危険因子を知り、看護事故防止のための知識・技術を修得する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く</li> <li>■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度</li> <li>■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践</li> <li>□ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割</li> <li>■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける</li> </ul>			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1. 医療安全と看護の理念	講義（専任教員）	
2	2. 医療事故の定義・分類 3. 看護事故の構造	講義（専任教員）	
3	4. 医療事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	講義（専任教員）	
4	5. 看護における医療事故と安全対策①	講義（専任教員）	
5	看護における医療事故と安全対策②	講義（専任教員）	
6	看護における医療事故と安全対策③	講義（専任教員）	
7	6. 事件事例に基づいた自己分析（シミュレーション）	講義・GW（専任教員）	
8	事件事例に基づいた自己分析（シミュレーション）	講義・GW（専任教員）	
9	医療安全とコミュニケーション	講義（専任教員）	
10	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	講義（医療安全室）	
11	医療機関における安全対策①	講義（医療安全室）	
12	医療機関における安全対策②	講義（医療安全室）	
13	医療機器の安全管理 1) 医療機器の安全	講義（臨床工学士）	
14	2) 診断・観察に用いる医療機器の安全な取り扱い	講義（臨床工学士）	
15	3) 治療に用いる医療機器の安全な取り扱い	講義（臨床工学士）	
	試験		
事前学習・事後学習内容 指定した内容を事前に学習しておくこと。 講義の予習・復習をして講義に臨んでほしい。		評価方法 終講時試験：専任教員（60点）1～9 医療安全管理室（20点）10～12 臨床工学士（20点）13～15	
使用するテキスト 医療安全(医学書院)	参考文献		
受講生へのメッセージ 人間はエラーを起こす可能性を持っている。「自分もエラーを起こす可能性を持っている」という観点をもち、また、複雑に絡み合う事故の要因を考え、どのように事故を予防し、患者さんの安全と自己自身の安全を守ることができるのかを一緒に考えていきましょう。			

科目名 看護研究Ⅰ	学年学期	単位数	時間数
	2学年後期	1	15
時間割表記名 看護研究Ⅰ	講義担当教員	専任教員	
科目のねらい 看護研究（ケーススタディ）の基礎と研究のプロセスについて学ぶ。			
学習目標 1. 看護研究のプロセスがわかる。 2. 看護研究へ興味・関心がもてる。 3. 看護の探求のための自己研鑽ができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 □ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	看護研究（ケーススタディ）とは	講義・GW	
2	看護研究（ケーススタディ）のプロセス1 進め方と看護研究計画書の書き方	講義・GW	
3	看護研究（ケーススタディ）のプロセス2 倫理的配慮	講義・GW	
4	看護研究（ケーススタディ）のプロセス3 テーマの題材と決め方	講義・GW	
5	看護研究（ケーススタディ）のプロセス4 はじめから結論まで	講義・GW	
6	看護研究（ケーススタディ）のプロセス5 文献検索	講義・GW	
7	看護研究（ケーススタディ）のプロセス6 発表とクリティーク	講義・GW	
事前学習・事後学習内容 さまざまな文献や本を読みましょう。（文献検索システムも活用）		評価方法 ・各講義での提出物にて評価	
使用するテキスト ・看護研究（医学書院）		参考文献 ・わかりやすいケーススタディの進め方（照林社） ・文献検索システム 他	
受講生へのメッセージ ・看護の向上のために、看護研究をまとめることはとても大切なことです。これが、次に出会う方のためになることはあるはずです。より良い看護の提供ができるように、知識を深めていきましょう。			